

平成 22・23 年度

川崎市教育委員会研究推進校 (体育科)

研究報告会 資料

研究テーマ

みんなの「いいね」でかがやくわたし

～共に学び、運動の特性を楽しむ体育学習をめざして～



100・140周年マスコットキャラクター
ヒマラン

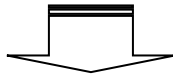
平成 23 年 12 月 14 日(水)

川崎市立高津小学校

1 研究の方向性

学校教育目標

すぐれた知性 豊かな感性 確かな行動力



〈体育学習で育てたい力〉

子どもたちの能力、適性、興味・関心などに応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習を取り入れ、主体的な学びを通して身に付けさせていく。

2 研究主題について

体育の研究を始めて、今年度で3年目となる。

研究1年目、まず校内研究として、授業を進める上で大切なことは何か、子どもたちができるようになるためには、どんな計画を立てていけばよいのか、どんな場で行うのがよいのか、用具は何を使うのか、さまざま資料をもとに手探りの中ではじめてきた。年間を通して授業を提案し、工夫しながら、確実に子どもたちが変わっていく手ごたえを感じる事ができた。

研究2年目の昨年度は、研究主題の『かがやくわたし』の姿を明確にし、友達とのかかわりを通してその姿に近づけるにはどんな手立てが有効かを探ってきた。

成果

- 「かがやくわたし」の姿を明らかにし、その姿に向かうための、“かかわりを生かす手立て”と“学習を支える手立て”をより具体的にしたこと子どもたちのかがやく姿が多く見られるようになった。
- 学習の道すじの中で、「みんなに指導すること」（その時間に、みんなに指導する指導内容）を明確にしたことで、単元を通して教師が見通しを持って計画的に授業を進めることができた。
- 単元の中で特に大切だと思われることについて、言葉かけを率先して行った。低学年では、真似をしたり一緒に活動したりしたことで、安心して友達とかかわることができた。中学年では、かかわりを深められるような肯定的な言葉かけをしていったことで、意欲の喚起にもつながった。高学年では、動きのポイントを伝えたことで、子どもたち同士で見合うことができるようになってきた。

課題

- ▽本校の子どもの実態に応じた指導内容を整理し、**それぞれの運動のもつ特性にふれることで、楽しみながら身に付けさせたい動きができるようになる姿を増やしていく**ことが必要。
- ▽今年度に引き続き、「みんなに指導すること」を明らかにしていく。その中では、指導内容を教え込むだけでなく、子どもたちの学びや気づきを大切にしながら、めあてをもって学習を進めていくようにする。そして、教えることとわかることのバランスを考えて**学習の道すじを組み立てていく**ことが必要。
- ▽本校の子どもの実態に合った学習計画をつくること。

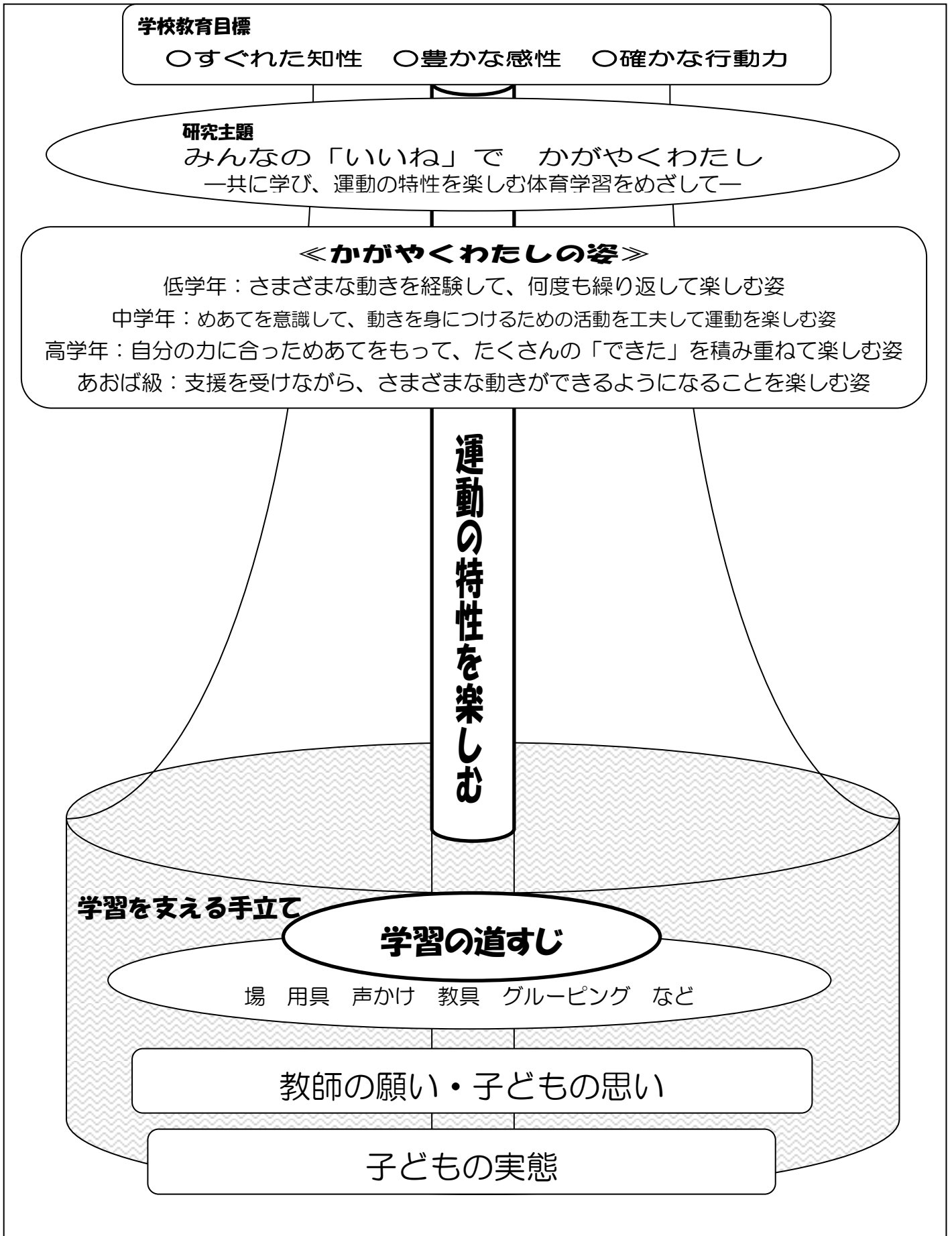


昨年度の成果と課題を受けて、研究主題を以下のように掲げた。

研究主題 **みんなの「いいね」でかがやくわたし**
～共に学び、運動の特性を楽しむ体育学習をめざして～

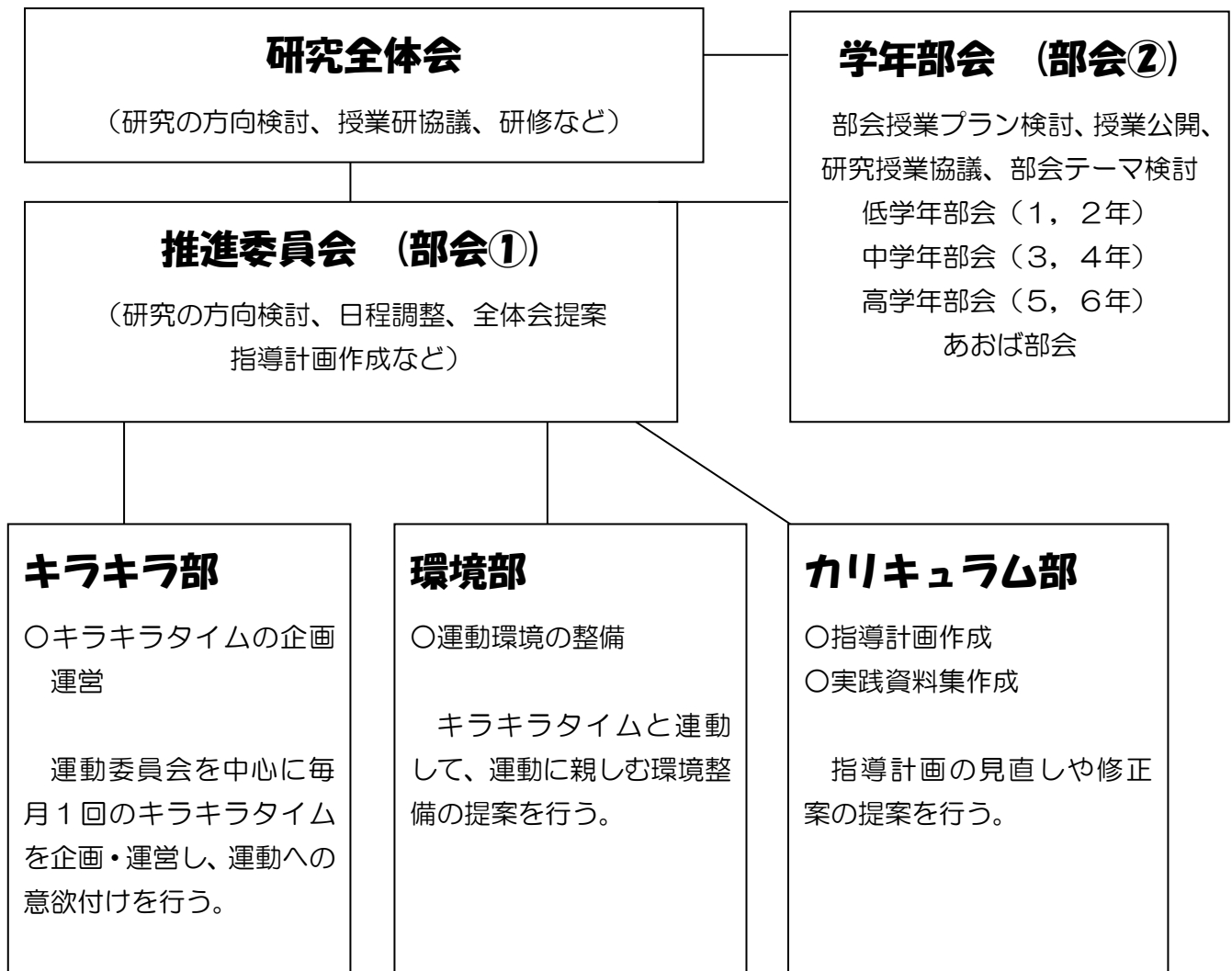
子どもたちの『かがやくわたし』の姿を、**運動ができるようになる姿**ととらえ、それぞれの学年での実態を明確にし、学校教育目標に近づけるために、めざす子どもの姿を設定し、そのために必要な学習を支える手立てを考えた。運動の特性を味わいながら、小さな「できた」を積み重ねて楽しみ、できるようになる姿が増えていく姿をめざして学習を組み立てていきたいと考える。

3 研究構想図



※実践を重ねながら修正しています。

4 平成23年度の研究組織



《部会からの報告》

キラキラ部会
環境部会
カリキュラム部会
学年部会

※別紙参照



100・140周年記念マスコット
ヒマラン

5 平成23年度 研究日程

月	日	曜	形態	内容
4月	6	水	推進委員会	23年度 研究全体構想と研究組織について
	21	木	推進委員会	研究テーマ及びサブテーマ、高津小の子どもたちの姿とつきたい力 日程検討 ・ 研究授業の取り組み方
	22	金	研究全体会	研究の方向性について ・ 研究日程 ・ 研究授業の取り組み方
6月	2	木	部会②	授業研究①： 指導案検討
	7	火	推進委員会	指導案の形式 ・ 研究の視点 ・ 次回の授業について
	15	水	授業研究① (教育課程 研究会授業)	低：2年3組 角石 恵 器械・器具を使った運動遊び「マット遊び」 中：3年5組 浦海 民江 体づくり運動「多様な動きをつくる運動遊び」 〔講師〕 君塚 一夫 校長 (木月：小体研会長) 森島 烈 指導主事 (総合教育センター)
	27	月	部会②	授業研究②： 指導案検討
7月	5	火	推進委員会	次回授業について ・ 推進校報告会について
	13	水	授業研究②	中：3年1組2組3組 日野美千代 深野 宏 池田 耕一 浮く・泳ぐ運動 高：6年3組 青山 茂 器械運動 「マット運動」 〔講師〕 中：棟居 謙 先生 (長沢) 高：大杉 徹 先生 (子母口) 全体：木村 俊彦 校長 (久本：小体研副会長)
8月	26	金	部会②	授業研究③： 指導案検討
	29	月	推進委員会	次回授業について
9月	21	水	授業研究③	低：1年2組 田代 笑 ゲーム 「ボールゲーム」 高：6年4組 内野 真理子 ボール運動「バスケットボール」 〔講師〕 低：増田 有美子 先生 (宿河原) 高：佐藤 勝 教頭 (真福寺)
10月	13	木	推進委員会	中間の授業実践の振り返り ・ 推進校報告会について
	20	木	部会②	授業研究④： 指導案検討
	31	月	部会②	授業研究⑤： 指導案検討
11月	1	火	推進委員会	次回授業について ・ 推進校報告会について
	9	水	授業研究④	低：1年6組 北野 久子 ゲーム 「ボール投げゲーム」 中：4年1組 澁谷 睦美 器械運動 「跳び箱運動」 〔講師〕 低：増田 有美子 先生 (宿河原) 中：安藤 博 先生 (西生田)

月				全体：森島 烈 指導主事（総合教育センター）
	15	火	部会②	推進校報告会 指導案検討
	24	木	授業研究⑤	低：2年4組 八重樫 祐介 走・跳の運動遊び「跳の運動遊び」 高：5年1組 河野 展子 器械運動 「鉄棒運動」 〔講師〕 低：増田 有美子 先生（宿河原） 高：大杉 徹 先生（子母口） 全体：君塚 一夫 校長（木月：小体研 会長）
	30	水	推進委員会	次回授業について・推進校報告会について
12月	14	水	推進校 報告会	低：2年1組 西田 裕子 走・跳の運動遊び「跳の運動遊び」 中：4年5組 井上 智弘 ゲーム「ラインサッカー」 高：6年5組 本田 真人 器械運動「跳び箱運動」 〔講師〕 高橋 健夫 教授（日本体育大学大学院） 森島 烈 指導主事（総合教育センター）
	22	木	部会②	授業研究⑥： 指導案検討
1月	10	火	推進委員会	報告会反省と研究のまとめ方
	12	木	部会②	授業研究⑦： 指導案検討
	25	水	授業研究⑥	あおば級： サーキット 〔講師〕 上杉 忠司 先生〔学校教育部 課長〕 【予定】
2月	1	水	推進委員会	次回授業について・
	8	水	授業研究⑦	中：4年3組 青野 美沙子 体づくり運動 「多様な動きをつくる運動遊び」 高：5年3組 藤原 佳紀 体づくり運動 「体力を高める運動」 〔講師〕 中：山室 忠敏 先生（王禅寺中央） 高：大杉 徹 先生（子母口）
	28	火	部会②	今年度の研究について（学年ごと）
3月	2	金	推進委員会	今年度の研究の成果と課題
	14	水	校内研全体会	今年度の研究の成果と次年度の研究について

6 学習の道すじの基本構想

低学年 さまざまな動きを経験して、何度も繰り返して楽しむ姿をめざす。

1	→
0 ↓ 45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">安全の約束</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 経験する ○○の動きを <u>経験する。</u> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 動き方を知る ○○を知る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 繰り返して楽しむ・身に付ける ○○を繰り返して楽しむ。 ○○の動きを身に付ける。 </div> </div>

○経験する・・・初めての動きでも安心して取り組めるように、教師の真似をしてみんなで一緒に経験する。

○動き方を知る・・・どのような活動をするのか、どのように動くのかを知る。

○繰り返して楽しむ・身に付ける・・・いろいろな場で繰り返し活動する中で、ねらいに合った動きを身に付ける。

中学年 めあてを意識して、動きを身につけるための活動を工夫して運動を楽しむ姿をめざす。

1	→
0 ↓ 45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">安全の約束</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">動きに慣れる運動</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 経験する ○○の動きを <u>経験する。</u> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 動きのこつを知る・身に付ける ○○の動きを知る。 ○○の動きを身に付ける。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 選ぶ・工夫する ・場や活動の仕方を選んで楽しむ。 ・友達のよい動きを見つけて、取り入れて楽しむ。 ・作戦を選んだり立てたりして楽しむ。 </div> </div>

○経験する・・・初めての動きや、これまでに経験してきた動きを思い出しながら、みんなと一緒に経験する。

○動きのこつを知る・身に付ける・・・どのように動けばできるようになるかを知り、こつを意識して取り組み、動きを身に付けていく。

○選ぶ・工夫する・・・めあてを意識しながら活動の仕方を選び、楽しみながら活動する。

高学年 自分の力に合っためあてをもって、たくさんの「できた」を積み重ねて楽しむ姿をめざす。

1	→
0 ↓ 45	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">安全の約束</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">動きに慣れる運動</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 経験する ○○の動きを <u>経験する。</u> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ポイントがわかる・動きができる ○○のポイントがわかる。 ○○の動きができる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 高める ・できる動きを増やして楽しむ。 ・もう少しでできそうな動きに挑戦して楽しむ。 ・チームでの動きを高める。 </div> </div>

○経験する・・・基本的な動きを、みんなと一緒に思い出しながら経験する。

○ポイントがわかる・動きができる・・・動きのポイントをみんなを確認し、基本的な動きができるようになる。

○高める・・・動きのポイントを意識して、できる動きを増やししながら、運動に主体的に取り組む。

あおば級 支援を受けながら、さまざまな動きができるようになることを楽しむ姿をめざす。

1	→
0 ↓ 45	<div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div>経験する</div> <div>動き方を知る</div> <div>繰り返して楽しむ</div> </div> <p>※それぞれの子どもの実態に合わせて学習の道すじを考えていくようにする。</p>

7 各学年の実践より

低学年 さまざまな動きを経験しながら、何度も繰り返して楽しむ姿

○低学年では、まず動きを経験し、その後、動き方を知る時間をとり、教師がねらった動きを出させたい場で何度も繰り返し楽しみながら、繰り返す中で動きを身に付けていけるような基本構想を考えた。

1年生の実践から「ゲーム・的あてゲーム」の授業

- ☆運動の特性・・・・・・・・・・いろいろな投げ方でさまざまなボールを、力いっぱい投げる楽しさ。
 - ・経験する・・・・・・・・・・投げる的当ての8つの場でさまざまな投げ方を経験した。
 - ・動き方を知る・・・・・・・・・・そこでの遊び方を知った。
 - ・繰り返してできるようになる・・上投げや横投げ、片手や両手でボールを転がす動きなど、いろいろな投げ方で楽しくねらえる的があることで、繰り返し投げることができた。
- 子どもの様子・・・・・・・・・・徐々に、ねらったところに力いっぱいボールを投げられるようになってきた。

「ボール投げゲーム(ドッジボール)」の授業

- ☆運動の特性・・・・・・・・・・ねらった相手に向かって意欲的に投げたり、ボールを捕ったりする楽しさ。
 - ・経験する・・・・・・・・・・友達に向かってパスしたり、的に向かって投げたりする動きを経験した。
 - ・動き方を知る・・・・・・・・・・コートでの動き方を知った。
 - ・繰り返してできるようになる・・みんなで同じ規則で行った。攻めと守りを意識して繰り返して、楽しみながら取り組んだ。
- 子どもの様子・・・・・・・・・・ねらって当てるというだけでなく、ボールを捕るという動きも、楽しみながら身に付けることができた。

2年生の実践から「マット遊び」の授業

- ☆運動の特性・・・・・・・・・・いろいろな方向に転がったり腕で体を支えたりしながら、回転感覚や倒立感覚を味わう楽しさ。
 - ・経験する・・・・・・・・・・ゆりかごやカエルの足打ちなどをみんなで経験した。
 - ・動き方を知る・・・・・・・・・・場での楽しみ方を知った。
 - ・繰り返してできるようになる・・マットランドの場で、コースをかえながら何度も繰り返したり、友達と動きを合わせたり競争したりして取り組んだ。
- 子どもの様子・・・・・・・・・・腕で体を支持しながら何度も転がることで動きに慣れ、回転感覚や倒立感覚を味わいながら前転がりや壁のぼり倒立など、できる動きを増やしていくことができた。

実践から見えてきたこと

低学年では、まずは教師の真似をしたりみんなで一緒に動きをしたりして動きを経験し、動き方を全体で確認した後に、場での動きを楽しむといった学習の道すじがとても有効であった。場に、ねらった動きを意図して組み入れ、さらに子どもが楽しいと思える要素を加えた場を準備することで、何度も繰り返しながら動きを身に付けることができることが見えてきた。低学年では、さまざまな感覚を養うことがとても重要である。いろいろな動きを楽しみながら経験し、何度も繰り返してできるようになるような道すじを組むことが有効であることが見えてきた。

中学年 めあてを意識して、動きを身に付けるための活動を工夫して運動を楽しむ姿

○中学年では、はじめにみんなで動きを経験し、動きながらコツを知る時間と、動きを身に付ける時間をとった。単元が進むにつれ、自分のめあてに合った活動の場を選んだり動きを工夫したりして、楽しみながら動きを身に付けられるよう基本構想を考えた。

3年生の実践から「多様な動きをつくる運動」の授業

☆運動の特性・・・・・・・・・・さまざまな運動を楽しみながら動きを身に付ける楽しさ。

・経験する・・・・・・・・・・スキップやギャロップ、平均台を渡る動きなどを教師が動きを教師が提示し、みんなでその動きを経験した。

・動きのこつを知る・身に付ける・・スキップでは、タン、タタン、タタンのリズムで進むことや、平均台を渡るときには、足元をよく見ながら手を広げて進むなど、うまくできるようになるためのこつを知り、姿勢や人数などの工夫の仕方を考えながらできるようになってきた。

・選ぶ・工夫する・・・・・・・・・・それぞれの場での動きを知って、やってみたい場を選びながら、動きを工夫しながら取り組んだ。

○子どもの様子・・・・・・・・・・できるようになる動きが増え、友だちと動きを合わせたり組み合わせたりして楽しみながらできるようになる姿が見られた。

「浮く・泳ぐ運動」の授業

☆運動の特性・・・・・・・・・・体の力を抜いて続けて長く浮く楽しさ。

・経験する・・・・・・・・・・ボールやペットボトルなどの補助具を使って、さまざまな浮き方を見つけたり、友達の浮き方を真似したりしながら経験した。

・動きのこつを知る・身に付ける・・子どもが見つけた動きの中から、全体で共有したい浮き方を紹介し、全員で取り組んだ。

・選ぶ・工夫する・・・・・・・・・・補助具を使う場や使わない場を選んで、浮き方や進み方を見つけていった。楽しい浮き方を意欲的に見つけながら、工夫して取り組んだ。

○子どもの様子・・・・・・・・・・友だちと一緒に活動したり、新しい浮き方を見付けたりして、続けて長く浮く楽しさを味わう姿が多く見られた。

4年生の実践から器械運動「鉄棒運動」の授業

☆運動の特性・・・・・・・・・・着地の姿勢を意識してより大きく跳び越したり、できる技を増やしたりする楽しさ。

・経験する・・・・・・・・・・開脚跳びや台上前転を思い出しながら経験した。

・動きのこつを知る・身に付ける・・着手はパーで着くことや踏み切りを強く踏み切ることを知り、意識してできるようになってきた。

・選ぶ・工夫する・・・・・・・・・・練習の場を選んだりつくり変えたりして、できるようになるための場を工夫して取り組んだ。

○子どもの様子・・・・・・・・・・友だちと動きを合わせて楽しんだり、めあてを意識して取り組んだりすることで、主体的に学習を進めることができた。

実践から見えてきたこと

中学年では、子どもたちの発達段階として、少しずつ友達の動きに目を向けて、よい動きとして意識して取り入れることができるようになってきた。また、単元の前半に動き方やこつがわかって、主体的に学習を進めることができるようになってきている。このことを踏まえて、学習の道すじの基本構想で「知って選ぶ」という学習の流れを組んだことが、とても有効であった。

高学年 自分の力に合っためあてをもって、たくさんの「できた」を積み重ねて楽しむ姿

○高学年では、単元の前半で動きのポイントを知り、できるようになりたい動き(器械運動では技)をめあてとして、主体的に学習を進められるようにした。単元の後半は、友達からのアドバイスやチームでの話し合いの場面を通して、さらに高めるための時間をとり、たくさんの「できた」を積み重ねていけるように基本構想を考えた。

5年生の実践から器械運動「鉄棒運動」の授業

- ☆運動の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・基本的な動きを身に付けたり、新しい動きに挑戦したりして、できる技を増やしていく楽しさ。
- ・経験する・・・・・・・・・・・・・・・・・・低学年で経験した豚の丸焼きやツバメの動きを思い出しながら、単元のはじめに上がり技や下り技を経験した。
- ・ポイントがわかる・動きができる・・前半で「膝を引きつける」「肘を伸ばす」などの技のポイントを伝えた。
- ・高める・・・・・・・・・・・・・・・・・・友達と技を見合ったり教え合ったりすることで、できる技を増やして楽しんだ。
- 子どもの様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・友達からアドバイスをもらいながら抱え込み回りができるようになったり、後方ひざ掛け回転ができるようになったりして、技ができるようになって喜ぶ姿が多くみられた。

6年生の実践から器械運動「マット運動」の授業

- ☆運動の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・「できた」という達成感を味わう楽しさ。
- ・経験する・・・・・・・・・・・・・・・・・・自分ができる技を確かめながら、全体で動きを経験した。
- ・ポイントがわかる・動きができる・・一つ一つの技のポイントをみんなで確認しながら、基本になる動きを身に付けていった。
- ・高める・・・・・・・・・・・・・・・・・・できるようになりたい技をめあてとして、一つ一つの動きができるようになることを積み重ね、達成感を味わいながら主体的に学習を進めた。
- 子どもの様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・高学年の器械運動として学習の流れを同じにしていることで、学習の仕方を子どもたちも理解して、見通しをもって学習ができていた。単元を通して、終末の姿勢を意識して学習を進めたことで、次の技につなげる時にも安定して組み合わせることができた。

「バスケットボール」の授業

- ☆運動の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・集団対集団の攻防によって、点を取り合って競い合う楽しさ。
- ・経験する・・・・・・・・・・・・・・・・・・シュートゲームや3対2などのミニゲームを行いながら、みんなでボールを運ぶ動きを思い出した。
- ・ポイントがわかる・動きができる・・パスやシュートなどのボール操作のポイントをつかめるようにした。
- ・高める・・・・・・・・・・・・・・・・・・ミニゲームで身に付けたボール操作や攻め方を3人対3人のゲームを中心に生かせるようにした。
- 子どもの様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・単元を通して、チームで声をかけ合いながら動き方を確認し合ったり、一人一人がチームでの役割を考えたりしながら動きを高める姿が見られた。ボール運動が苦手な子でも、単元の前半でボールをもらう動きをチームでアドバイスし合ったことで、チーム内での役割が明確になり、意欲的にボールに向かう姿勢が増えてきた。

実践から見えてきたこと

高学年では、単元の前半で動きのポイントを理解することで、できるようになるための学習の流れがわかり、めあてを明確にもつことで、主体的に学習を進められるようになってきている。さらに、課題解決の方法を選び友達と一緒に共に高めていく、という学習の道すじが有効であった。

8 成果と課題

成果

- 教師が、運動の特性を共通理解して学習の道すじを立てたことで、子どもたちは運動の特性を楽しむことができた。
- 低・中・高学年で、学習の道すじの基本構想を立てたことで、かがやくわたしの姿に近づけることができた。さらに、その基本構想をもとに、見通しをもって計画的に指導することができたことで、動きを身に付けることができた。
- 低・中・高学年部会で話し合いを行うことで、学年間で動きの系統性を話し合いながら授業づくりを進めることができ、2年スパンでの見通しをもって指導することができた。

課題

- ・ 検証していない領域における、有効な学習の道すじ
- ・ 子どもの実態に合った指導計画の見直し
- ・ 低・中・高学年、6年間を見通した指導計画の見直し

これまでに、たくさんの方々にご指導をいただきました。高津の子どもたちの姿が日に日に変わっていく姿を目の当たりにして、研究の成果を肌で感じています。

講師の先生方をはじめ、ご指導していただきましたこと、とても感謝しています。本当にありがとうございました。

高津小学校 教職員一同

